学校法人 小林学園
本庄東高等学校附属中学校
きりぐるま
第63号

入学によせて

～平成３１年度入学式式辞より～

理事長・学校長　小林　弘斉

希望の光溢れる今日、ここに第十四回入学式が挙行できますことを、理事長・学校長として心より嬉しく思っております。

新入生、八十八名の皆さん、入学おめでとう。皆さんの入学を心待ちにしていました。学園生活に一日も早く慣れて、楽しく充実した毎日を送ってもらいたいと願っています。そこで、これからの中学校生活において心がけてもらいたいことを二つお話しします。

一つ目は、学校生活で出会うすべての人や物事を大切にしてほしいということです。

これから始まる学園生活には、たくさんの出会いが待っています。同級生の友達や二、三年生の先輩たち、そして先生方など、多くの人との出会いです。そこで出会った相手に対して真心をこめて向き合って下さい。そして、自分のことを分かってもらうとともに、相手のことも理解するように心がけましょう。そうすれば、まわりの人たちは、いつも皆さんを支えてくれるはずです。同時にまた、皆さんの一人ひとりも、周りの人にとってかけがえのない大切な人となるのです。そのようなよい人間関係を築いてもらえるように願っています。

さらに、学園生活においては、勉強や部活動、学校行事など、さまざまな学びの機会との出会いが用意されています。数々の学校行事と密度の濃い毎日の授業を通して、皆さんには、高い学力と豊かな人間性を身につけてもらいたいと願っています。多くの物事との出会いを大切にして、いつも全力で取り組む姿勢を持ち続けてください。

二つ目に心がけてほしいのは、「素直な心」を持つということです。今、人や物事との出会いを大切にしてほしいとお話ししましたが、そのためには、まずは素直な気持ちで接してみなければいけません。他の人の言葉を素直な気持ちで聞き、物事を素直な目で見ることから、正しいものの見方や考え方が生まれます。それが、自分を向上させ、成長させてくれる力となるのです。学力を伸ばし、人間としての豊かな心を育てるためには、「素直な心」を持つことこそが何よりも大切なのだと思ってください。

さて、保護者の皆様には、心よりお祝いを申し上げるとともに、中学生という多感な時期を迎え、お慶びとともに、ご心配も尽きないことと拝察申し上げます。学校と致しましても、保護者の皆様との連携を密にしつつ、持てる全ての力をもって、教育に当たる所存でおります。これからの学園生活につき、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに当たり、本日ご臨席を賜りました皆様に感謝申し上げるとともに、新入生の学園生活が充実したものとなることを願い、式辞と致します。

ひたむきに

教頭　島田 伸一郎

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんは、今日からたくさんの学びを積み重ねていきます。そして、自分の持つさまざまな力を引き出し、将来に向けた可能性を広げていくのです。そうした学園生活において心がけて欲しいことがあります。

それは、毎日の学園生活で出会う学びの一つ一つに、ひたむきに取り組むことです。「ひたむき」は漢字では「直向き」と書きます。真っ直ぐに続く一本道を「ひたみち」（直道）と言いますが、この「真っ直ぐ」が「ひた」という語です。一本道を、横にそれることなく前を向いて進み続けるように、目の前にある物事に、真っ直ぐに向き合うのが「ひたむきだ」ということです。「一途に」「一心に」などの語とほぼ同義です。

物事に取り組む時には、常に正面から向き合うことが大切です。気持ちがほかのことに向いていると、取り組みがどこか中途半端になってしまいます。見落としなどから、ミスも起こりがちで、あまり成果が上がりません。

物事にしっかりと向き合い、気持ちをそのことに集中してください。これは、人に対しても同じです。友達や先輩、先生、そしてもちろん家族。誰に対しても「ひたむきな」気持ちで向き合ってください。そうすれば、相手も皆さんのことを大切に思い、支えてくれます。そして「ひたむきに」努力し、周りの人たちに支えられて、皆さんの学園生活は充実したものになるはずです。

合唱コンクール

三月十九日（火）、本庄市民文化会館で合唱コンクールが行なわれた。どのクラスも練習の成果を発揮すべく元気な歌声を響かせた。

私はこの合唱コンクールで、課題曲の伴奏をしました。課題曲の「世界を変えるために」は、テンポもつかみづらく難しかったので、指揮者と練習を重ねました。本番ではとても緊張して、最初は指が震えていましたが、練習の成果を発揮し、最後まで自信をもって演奏できました。

自由曲であった「親知らず子知らず」は、母と子二人の命が波にさらわれてしまった悲しい出来事を表現することが難しく、友達と何度も話し合い歌詞の意味を考えながら練習しました。特に、母と子が波にさらわれる場面では、その様子を表現した「グワッと」のフレーズを何度も練習しました。本番では、クラスメートと心を一つにして歌い、念願の最優秀賞をいただくことができました。一年生の時から、合唱コンクールは一番好きな行事でした。中学校最後の行事で最高の結果を残すことができ、忘れられない思い出となりました。（大谷 菜摘）

1 3年2組
2 3年1組
3 2年2組

一年生茶道特別体験

三月八日（金）、一年生は二回目の茶道特別体験を行なった。今回は一年生の茶道部員にとって、お点前を初披露する場となった。

この日は私にとって、お点前のデビュー戦でした。担任の先生にお茶を運び、同級生の前でお点前をしました。普段は先生に教わりながらの練習なので、一人ではとても緊張しました。先輩のように綺麗なお点前はできませんでしたが、最後まで丁寧にやり遂げることができました。茶筅通しを失敗しないという目標を達成できてうれしかったです。一年間練習を頑張って良かったです。とても良い経験になりました。（岩田 絢香）

一年生 職業体験校外学習

二月六日（水）、キッザニアに職業体験へ行ってきた。生徒はそれぞれ、職業への興味と知識を広げることができた。

僕が最初に行った場所はヤクルトの化学研究所です。そこでの仕事は、ヤクルトを使い自分達で実験をすることでした。乳酸菌の働きを実際に見て、確認できたことはとても貴重な体験でわくわくしました。日頃よく耳にする乳酸菌が整腸作用にかかせない大切な菌であることを改めて実感しました。この研修を通して、普段食べているもののの裏側を知ることができ、どの職業にも大切な役割があるのだと思いました。（青木 大輝）

二年生 陶芸体験校外学習

二月六日（水）、益子で窯工場の見学をした後、抹茶椀作りを手びねりで体験した。生徒たちは熱心に作品を作っていた。

陶芸体験では、工場見学で見た登り窯が印象的でした。登り窯は山の斜面を利用して作られる窯です。小部屋がたくさんあり、その場所で仕上がりが変わる面白い窯でした。見学の後は抹茶椀作りです。作るときは薄くしすぎたり、手で温めすぎたりすると割れやすくなるため、繊細で難しかったです。陶芸品に触れることで、日本の伝統の素晴らしさを改めて感じました。このお椀を使ってお茶を点てる日がとても楽しみです。（髙他 光来）

発行・本庄東高等学校附属中学校　埼玉県本庄市西五十子大塚318　TEL.0495－27－6711㈹　　印刷／㈲本庄孔版社　TEL.0495－22－4436
［ホームページ］http://www.honjo-higashi.ed.jp　［メールアドレス］mailadm@honjo-higashi.ed.jp